

第4回 図書館サービス計画検討委員会 (2002年1月29日)

前回までの流れと本日のテーマ

図書館の利用には距離的な制約があって、図書館から遠く離れたところでは登録率や貸出密度がかなり低くなっており、図書館サービスを受ける上で地域的な不公平が生じています。

また、市の人口の2割弱しか図書館を利用していないこともあって、登録率30%を目指すためには現行の3館体制ではどうしても限界があり、少なくともあと1館、それも中央図書館の機能を備えたものを増やす必要があるということに意見が一致しました。

前回までは八尾図書館の改善(第1回)、新しい図書館の設置(第3回)と、施設面での検討が続きましたが、今回は、前回の最後に挙げた「開館日と開館時間」から「専門職員の雇用条件」までのソフト面での14の項目について検討しました。

八尾市の図書館サービスの現状と課題

以下の項目について、協議しました。「多文化に関するサービス」を追加した。

1. 開館日と開館時間 祝日開館と開館時間の延長
2. 児童に対するサービス 乳幼児の読書環境づくり・
学校図書館との連携・ボランティアとの連携
3. ヤングアダルトに対するサービス 図書館に引き寄せるための工夫
4. 勤労者に対するサービス 利用を増やすための方途
5. 高齢者に対するサービス 高齢者が本を読みやすい環境づくり
6. 障害者に対するサービス 施設の整備とソフト面での充実
7. AV資料に関するサービス 貸出期間と返却方法
8. 多文化に関するサービス 必要な情報の提供
9. 電子資料に関するサービス 新しい課題
10. 予約 インターネットによる予約
11. レファレンスサービス 充実の必要と人材の養成
12. 学校図書館との連携 更なる連携と高校・大学の図書館との連携
13. ボランティアとの連携 連携の方途と育成
14. 専門職員の雇用条件 図書館サービス充実のための処遇の改善

まず、「開館日と開館時間」に関して、祝日開館と夜間開館が協議の中心となりました。八尾市では現在祝日を休館日とし、開館時間を午前10時から午後5時としています。祝日開館では、祝日のうちの何日かを開館できないかという意見が大勢を占めました。夜間開館では、開館時間を延長することによってそれだけの効果が得られるか、午後7時なり8時まで開館したとしても(それだけの費用をかけたとしても)、それだけの利用が見込まれるか(費用に見合う効果が得られるか)が問題となりました。検討の材料とするため、次回までに府下の図書館に夜間開館についてのアンケート調査を行うこととした。

また、高齢者や障害者の場合、基本的には図書館に来てもらうことを前提としたサービスの提供を考えていくのがよいのではないかと、中学生・高校生といった青少年層(ヤングアダルト)の読

書離れが進んでおり、図書館を利用してもらう何らかの工夫が必要ではないか、インターネットによる予約が出来ないものか、公民館や学校図書館を地域の図書館として活用できないものか、といった意見が出されました。

次回は3月中旬の開催を予定し、引き続き図書館サービスに関する14の項目について検討することとしました。